

等^と
覚^{かく}
寺^じ



苅田町

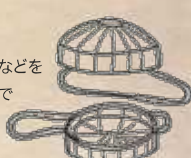
①斑蓋

峰入りなどの際に用いられる、絵で円型になった雨露よけの笠。斑蓋は仏頂莊嚴の天蓋を示し、衆生が母体内にいる時の胞衣を示すという。



②頭巾

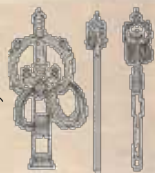
峰入りなどの際に、山中の痺気などを防ぐための小頭巾、黒の漆塗りで12の襟の付け中央の頂が山形になっている



山伏十二道具

⑤錫杖

木製の棒の先に、両側に各三つの鉄の内環をはめた、半月形の鉄輪をつけ、音が出るようにしたもの、修験者は六輪はめられた菩薩錫杖を用いる。



⑥笈

山伏が峰入の際に必要な道具を入れて背負うもので、修験道の教義を形象化したもの。笈には、正先達が用いる「板笈（縁笈）」と、新客が用いる「横笈」がある。



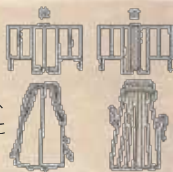
⑨金剛杖

山伏が山中を歩いて修行する際に雑念や煩悩をはらうために用いる木製の杖。



⑩鈴懸

山伏の法衣で、袖二幅、身二幅、襟一幅、脇入二幅からなる上衣と、8枚の布を用いて前に六ひだ、後に三ひだ取る袴からなっている。



③結袈裟

九条袈裟を修行に便利のように簡略化した修験道独自の袈裟。



④法螺

巻貝の大きなものに歌口をつけることで意外に大きな音が出るので、修験者が読経・合図・指令などの際に用いる。



⑦最多角念珠

修験道で用いられるソロバン玉の形をした百八の珠からなる念珠。念珠は煩悩を断じて仏果を生み出す法具とされている。



⑧肩箱

肩箱は笈の上にのせる木製被蓋の長さ1尺8寸、横6寸、高さ5寸の箱。山伏はこの中に峰書などの貴重品を入れていた。



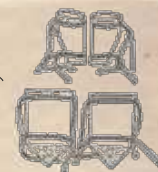
⑪引敷

峰入の山伏が腰につける小さな皮の敷物で、多くは鹿・熊・兎などの皮にひもを付け、腰にしばりつけて尻の敷物とする。



⑫脚半

山伏が足の保護のため脛に巻く布、筒脚半（胎蔵界）、剣先脚半（金剛界）、胎金不二の脚半の3種類がある。



等覚寺の催し

- 4月 網うち
柱おこし
等覚寺の松会
竹の子掘り
- 6月 田植え
そば種まき
- 7月 コスモス種まき
- 8月 いくり収穫
- 10月 稲刈り
そば収穫
- 12月 新そば試食会



最寄の駅・インターなどからのアクセス

- 苅田北九州空港インターより車で約30分
- 苅田駅から10km 車で約20分
- 小波瀬西工大前駅から9.3km 車で約20分
- 行橋駅から9.6km 車で約22分



(令和5年1月改定版)



棚田マップ①からの撮影写真

春



畦道に咲く菜の花や、桜が春の訪れを感じさせます。陽気の良さに心躍っているかのような野鳥たちの鳴く声が、陽の光にあたためられた棚田にひびきわたります。棚田に水が引かれる5月の田植えの時期には“水鏡”となった水田に、空の青色や木々の緑が反射され様々な色に変化します。夕陽が沈む時間帯の水田をオレンジ色に染める幻想的な風景は息をのむ美しさです。



棚田マップ②からの撮影写真

夏



夏になると成長した若々しい青い苗の清風に揺られる様子が私たちに元気を与えてくれます。田植えを終えたばかりの頃には、頼りなさそうな姿で水面に並んでいた苗も、みるみる成長してこの頃には棚田全体がすっかり緑に覆われます。草刈りを終えた畦道を歩くと、刈られた草のむせ返るような匂いが夏の訪れを感じさせます。

等覚寺 棚田季候

菊田町等覚寺地区(とかくじ)は、標高250メートルの小さな集落。かつての修験道の地で、明治時代初期まで山伏が暮らしていたといわれています。山伏が残した山里の美しい風景と遺産を大切に受け継いでいます。



棚田マップ③からの撮影写真

秋



収穫の9月頃になると、稲穂が全体に広がり、まるで金色の絨毯が引かれているかのような景色が広がります。山里にこだまする虫の声や、棚田に可愛らしいピンク色や白色のコスモスが秋の訪れを感じさせてくれます。この日本古来から変わらない風景を眺めているとどこかつかしい気持ちになります。



棚田マップ④からの撮影写真

冬



冬になると、凍てついた雪の日などには雪化粧をした棚田が現れ幻想的な空間を造り出します。収穫を終えた棚田はやがて長い眠りの季節に入り、それはまるで一年間稲を育んだ疲れを癒しているかのよう。静かに春を待つ棚田はどこか哀愁が漂って見え、同時にそれは春を待ち遠しく思う瞬間でもあります。



等覚寺物語

天平六年(734)、東大寺の僧慧空が普智山等覚寺を開いたといわれています。その後、修験の里となり、最盛期には三百の坊がひしめき、修行の場として栄えました。明治の神仏分離で白山多賀神社となり、等覚寺は地名として名残を留めています。



1000年の歴史を伝える 山伏の祭り「等覚寺の松会」

国家太平・五穀豊穡を祈る春の祭礼で、約1000年前から伝わります。松会当日は、獅子舞、田植え、幣切り(へいきり)などが行われます。特に、クライマックスの幣切りは、人が神になり代わって神の御霊が宿る純白の御幣を切るというもので、全国的にも貴重な神事です。昔ながらの山岳修験道の祭礼の様子をよく留めていることから、平成10年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。



山伏が切り拓いた美しい「棚田」

平成4年に農林水産省より農村景観百選にも選出されている棚田。急斜面を刻む棚田は山伏が切り拓いたとされ、枚数が多いことが特徴です。水面や稲穂がゆれる時期はまさに日本の原風景。杉林に抱かれた「棚田」の畦と苗の曲線美は絶好の被写体です。





等覚寺 遊歩マップ



等覚寺 棚田マップ





棚田の田植え 6月上旬

初夏のさわやかな風が木々の緑とたわむれる季節。等覚寺の棚田にいいよ田植えの時期がやってきました。水を張った田んぼにうつる青い空。この時期ならではの美しさは見る人の心を癒します。思い思いに棚田の絶景を眺めながらの散策に最適です。



彼岸花 9月下旬

等覚寺の棚田もすっかり秋めいてきたようです。刈り入れの時期、棚田に彼岸花が満開です。たわわに実った黄金色の稲穂と真っ赤に色づいた彼岸花の対比的な美しさは、この時期ならではの景色です。一度観たらまた観たいと思わせるそんな力を感じます。彼岸花の花言葉は“再会”。里の皆があなたにまた会える日を楽しみにしています。



空の家・天空之湯

等覚寺にひっそりとたたずんでいる「空の家」。古民家をリフォームして誕生しました。家の中には、囲炉裏があり、ほんのり懐かしさを覚えます。また、屋外には手作りの五右衛門風呂があり、眼下に広がる街の景色を眺めながらお風呂に入ることができます。そんな身体も心も温まる一時をあなたも過ごしてみませんか。

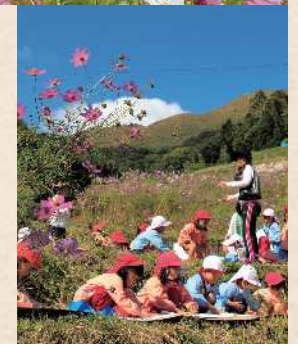


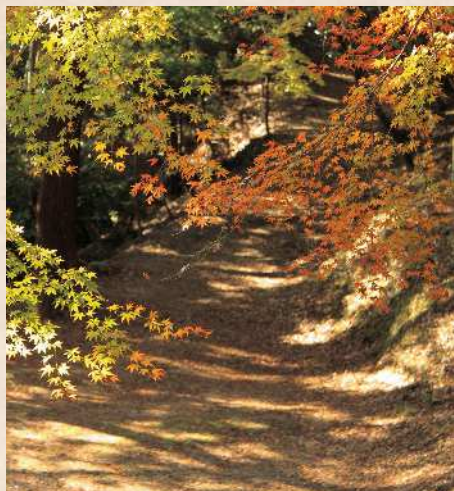
五右衛門風呂



棚田コスモス 10月上旬

やわらかな秋空の下、等覚寺では棚田まつりが行われます。春には青々とした若葉が芽吹いていた棚田に濃いピンク色、薄いピンク色の愛らしいコスモスが姿を見せます。秋風に揺れるコスモスを観ながら、里のお祭りに参加してみたいはいかがですか。





山伏古道

トレッキング

山伏が歩いたとされる山伏古道を登り詰めると、豊玉姫が祀られている青龍窟が姿を現します。凛とした空間がそこにはあり、自然の厳しさと共にあった山伏たちの山岳修験の場として存在するパワースポットとして有名です。青龍窟からさらに平尾台方面へ足をのばすと、鬼の唐手岩と福岡県唯一の湿原である広谷湿原が広がっています。湿原特有の貴重な植物も見ることができます。



青龍窟



鬼の唐手岩



広谷湿原



松会味噌



松会漬



等覚寺特産グループ



棚田米

お土産

等覚寺の山伏たちが修行に持ち歩いた秘伝の味噌・漬物。地元の女性が丁寧につくっている味噌は、山ベリ清流で育った米、福岡県産の大豆、自然塩のみを使用し、天然酵母を8か月間ゆっくりと自然熟成させた、甘みとコクが特徴です。東京など遠方からも注文があるほどの人気で、ここの味噌を食べたら他の味噌には戻れません。その味噌で漬けた漬物もあり、大根、にんじん、きゅうり、こしょうの葉など旬の野菜を漬け込んでいます。



いくりジャム



そば打ち体験

11月下旬 空の家

休耕地を使用し栽培されているそば。純白のそばの花が落ちた後、丁寧に刈り取った蕎麦のみを使用したそば打ち体験が楽しめます。マイそばを作ってみませんか。



竹の子掘り

3月下旬

集落周辺は竹林に囲まれており、春先には地面より竹の子の頭が顔を出します。見つけた竹の子の周りの土を掘っていくと、つばな竹の子が現れます。いのししに食べられる前にいざ竹林へ。

